

サンゴを守り育て、環境に優しい漁業によるふるさとづくり (平成22年度認定)



恩納村は、北東から南西46kmに及ぶ細長い海岸線と広大なイノーが形成されており、変化に富んだ漁場に恵まれた、漁業の盛んな地域である。また、大型ホテルが隣接するリゾート地域で観光漁業も盛んな地区である。

恩納村漁業協同組合はその集落の中心部にある前兼久漁港を活動拠点とし、「里海づくり」、「効率の良い漁業生産」、「環境にやさしい漁業」、「誇りの持てる商品作り」を掲げ、活動している。

主力商品のモズク、海ぶどうは生産、加工、販売ラインが確立しており、県内はもとより県外にも販売し、本物志向をもち、食の安全・安心・安定供給を提供している。平成18年3月には海ぶどうの拠点産地として認定を受け、施設整備も整い村内各漁港で数多く生産されている。

また、組合では新商品を沖縄ハム総合食品会社と共同開発し、商品代の一部をサンゴ養殖や保護活動・オニヒトデ駆除にあて、サンゴ礁の環境・生態系保全にも努めるなど、独自の活動を行いながら里海を大切に育み、地域活性化に寄与し、【サンゴを守り育て、環境にやさしい漁業によるふるさとづくり】に取り組んでいる。



海ぶどう収穫の様子

